

特集

人間 嘉納治五郎を語る

目次

- グラビア …… 01 ～ 02
- 一般社団法人 茗溪会第6回定時総会 …… 03 ～ 09
- 平成29年 暑中お見舞い申し上げます …… 10
- 特集 「人間 嘉納治五郎を語る」  
「第一回 オリンピックを世界共通の文化にしたい」  
～嘉納治五郎の目指したオリンピック～ …… 11 ～ 16
- 筑波大学はいま …… 17
- 茗溪会 公開講座「花のある暮らし Part2」西川綾子 …… 18 ～ 19
- 茗溪・東西南北 …… 20 ～ 21
- 桐の葉のつどい …… 22 ～ 23
- 茗溪学園だより …… 24
- 追悼録 …… 25
- 平成29年春の叙勲おめでとうございます …… 26
- 広報 …… 26
- 表紙のことば …… 26
- 編集後記 …… 26

# 茗溪



夏

2017

平成29年

no.1094




  
 Juchheim
   
 SEIT 1909

日本のバウムクーヘンの歴史は  
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。  
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは  
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

[www.juchheim.co.jp/juchheim](http://www.juchheim.co.jp/juchheim)  
 〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

ユーハイム®

ハローハイム  
 お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)  
 携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

## 食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /  
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉学にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。  
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



### 学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。  
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、  
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。  
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。  
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの  
サポートも可能です。

### 寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者様の年齢層に応じたメニューを  
提供。栄養バランスを考えた食事を提供するだけでなく、  
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を  
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること  
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理  
業務も行っていきます。



はぐくむ、大切なことすべて  
**SHIDAX**

シダックスフードサービス株式会社

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町1-17-10 シダックス新宿セントラルロード  
TEL.03-6632-5052 (代表)

**KAIT**

# 力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。

- 工学部**
  - 機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
  - 電気電子情報工学科
  - 応用化学科
  - 臨床工学科
- 創造工学部**
  - 自動車システム開発工学科
  - ロボット・メカトロニクス学科
  - ホームエレクトロニクス開発学科
- 応用バイオ科学部**
  - 応用バイオ科学科
  - 栄養生命科学科[管理栄養士養成課程]
- 情報学部**
  - 情報工学科
  - 情報ネットワーク・コミュニケーション学科
  - 情報メディア学科
- 看護学部**
  - 看護学科

理事長 中部謙一郎  
 常務理事 河野 隆二(S47農)  
 監査室 矢野 正人(S53院修農)(神奈川茗溪会 会長)  
 教職センター 大畑多津雄(S52理 数)(同 副会長)  
 教職センター 望月 正大(S51理 数)(同 副会長)  
 早期学生支援室 掛原 豊(S54農林学類)



**神奈川工科大学**  
 KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030  
 TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/



洋装の嘉納治五郎

特集

# 人間 嘉納治五郎を語る

(第1回) オリンピックを世界共通の文化にしたい  
～嘉納治五郎の目指したオリンピック～



(左)東京オリンピック招致のパフレット (右)日本を紹介するアルバム



茗溪会理事長 江田昌佑さんと 筑波大学教授 真田 久さん

## 公開講座 西川綾子先生 「花のある暮らし Part2」

平成 29年6月17日(土)

キヨウチクトウ



ヤグルマギク



西川綾子先生



ヘクソカズラ



## 一般社団法人 茗溪会 第6回 定時総会

平成29年5月25日(木) 茗溪会館にて

挨拶する松村副学長(学長代理)



挨拶する江田理事長



ブロック別懇談の会風景



一般社団法人

# 茗溪会第6回定時総会

平成29年5月25日(木) 茗溪会館にて

## 定時総会出席代議員一覧

(敬称略)

北海道	山本伸弘	埼玉	荒井修二	長野	小口俊幸	大阪	岡村多加志
北海道	大沼寛	埼玉	相澤鎮夫	新潟	内野信昭	大阪	笹原寿峰
青森	瀧口孝之	埼玉	奥谷多作	富山	神田聡	兵庫	永井邦治
岩手	平藤淳	埼玉	前島富雄	石川	久下恭功	奈良	藤岡明
宮城	高橋欣也	埼玉	矢嶋章司	静岡	綾部信明	和歌山	土肥二郎
秋田	石井潔	千葉	青木寛	静岡	熊野善介	鳥取	永野智之
山形	津田浩	文科省	三橋浩志	愛知	村松利之	島根	松本弘光
福島	鈴木弘文	東京	渡邊悟	愛知	川村昌宏	岡山	長尾隆史
筑波大	松村明	東京	中村穎司	愛知	竹下裕隆	山口	鍋井邦久
茨城	鈴木一弘	神奈川	小山和夫	岐阜	大橋則雄	愛媛	畑野智司
茨城	高瀬宏樹	神奈川	佐々木悦子	滋賀	町田登	福岡	永沼真紀
茨城	武井秀一	神奈川	本木幹雄	三重	辻昭司	佐賀	野中通兼
群馬	市川敏美	神奈川	大畑多津雄	京都	川合英之	大分	渚洋行
群馬	福島実	山梨	浅川英三	大阪	松本秀範	鹿児島	原口和哉

一般社団法人茗溪会

第6回 平成29年度 定時総会

# 挨拶 (要旨)

一般社団法人 茗溪会

理事長 江田 昌 佑



本日は、一般社団法人茗溪会定時総会を開催しましたところ、ご多忙の中、全国各地からご参集いただき誠に有難うございます。

日頃、代議員の皆様には地域組織等における茗溪会活動にご尽力を賜っております。ここに敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

昨今の地震、台風、豪雨などによる被害を受けられた地域の方々には心からのお見舞いを申しあげ、一日も早い復興をお祈りいたします。

昨年の通常総会では、本会が当面する状況を説明させて頂き、各位のご理解とご協力をお願い致しました。すなわち、「茗溪会館の利用」、「新法人発足3年を経過して「レビューと中期将来計画」、「地域組織等の充実・強化」、「財政上の健全化・安定化」等についてでありました。特に、代議員各位のご意見を徹して策定した「レ

ビューと中期将来計画」については、本会の今後の運営の大綱として位置づけると同時に、平成の中興を目指すものであるとご説明いたしました。

新法人として発足して以来5年の歳月を駆けまして、本会は、構造的にも機能的にも、変革すべきところは刷新し、不易とすべきところは維持することに努めた道程であったと考えています。茗溪会が、いつの世にあっても大切にしたいのは、先達の志に思いを馳せ、茗溪の誉を世に示すことであります。茗溪には、人を大事にする、先輩後輩の各世代がお互いを尊重し力を出し合えるようにするとの一貫したスピリッツ、文化があります。この茗溪の精神とも云うべきものが実感できる限り、誇り高い伝統は継承されるものと確信しています。

平成29年の初頭に当たって、私は理事会にて以下のよう述べました。全国の会員が更に連携協力して前進するために、当面の最重要課題は、①組織力の強化を図ること、②財政基盤を強固にすること、そして③価値ある事業をさらに推進することであり、本会にとっては大変重要な時期に至っていることに鑑みて、各位のお力添えをお願いしたいと申し上げました。

組織力の強化については、本会の基盤である地域組織等の充実・拡大を図ることが重要であり、片や、教育界と教育界以外の業界のそれぞれの同窓活動の柱を大きくそして活発化させることが改めて要請されています。

理事会内の組織委員会は、昨年実施した全国調査結果をベースにして「地域組織等活動の活性化に向けて」と題した骨子をとりまとめ、茗溪会の仲間役に立ち、親睦をより深める互助事業」を策定しました。全国の地域組織等及び会員の皆様に呼びかけてご協力をお願いいたしたいと考えています。地域組織等の方々には実態に即した施策の展開に実行力を発揮して頂き、成果を挙げて下さることを切望しております。

財政基盤の健全化は、同窓会運営の収支と資産管理部

門の収支の二本立てで、財政的なバランスを取りながら将来にわたっての力強い基盤を形成することです。

最近の主な状況を申し上げますと、長期債務は計画通り一昨年で完済しました。また、公益目的事業の費消の法的なノルマは当初計画より1年早く平成29年度で終了する予定です。茗溪会館関連の事業は「嘉ノ雅茗溪館」がオープンして1年半になりますが、本会会員関係ははじめ多くの方々の利用に供し、順調な状態で進行しています。これらは全国会員の皆様のご協力やご支援の賜物と感謝しています。

一方で、会館の賃貸借契約に当り、会館諸設備の修繕・リフォームに要した費用支出は通常の予算内でクリアしてきました。今回計画中の、大型整備修繕工事については、一括実施により費用総額を大幅に削減できる一方で、単年度では相当の費用を要することに対し計画的に対応するという課題が浮上しております。将来に向かっての有効な設備投資として、タイミングよく、早急に踏み切りたいと思料しています。

目下、最も懸念されるのは、ここ年々、年度会費収入の減少です。理事会としては手を尽くして努力しておりますが、地域組織等による啓蒙・啓発活動等に期待される面も多く、会員の皆様のご協力を切に願っている次第です。

平成25年にスタートした茗溪会拡充キャンペーンは、当初5年程度を目標に「ゴー・5・GO作戦」として継続推進して参りました。多くの会員のご協力を得て一定の成果を挙げています。このキャンペーン活動も計画の最後の年度になり、その成果の大なることを期待しています。

以上、本会の現状に鑑み、本年の重要課題等について述べましたが、理事会は平成の中興を目指し、一丸となつて渾身の努力をしております。

代議員の皆様、全国各地組織等の皆様には、茗溪会の一層の発展のために、特段のご理解と更なるご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成29年度 茗溪会定時総会

## ご挨拶

国立大学法人 筑波大学長

永田 恭介

(代読 筑波大学副学長・病院長 松村 明)



貴会からの日頃からの本学へのご支援に感謝を申し上げます。貴会の平成29年度の定時総会に際して、ご挨拶を申し上げます。

現在、世界は大きな変曲点に直面しています。昨年起こった代表的な事例は、欧州連合離脱をめぐる英国の国民投票と米国の大統領選挙の結果です。いずれも有識者やメディアの予想を裏切り、英国では欧州連合離脱支持

が過半数を獲得し、米国ではトランプ氏が大統領に当選しました。これらの事実からは、これまでグローバル化の先頭に立ってきた欧米で孤立主義的な空気が勢いを増していることが推量されます。このように、過去の単純な延長線上に未来を描けない時代に大学が何をなすべきか、大学の構成員ひとりひとりがこうした社会背景をしっかりと考察し、認識を共有しなければなりません。

そのような中、本学の学生達は大いに活躍をしました。昨年のスポーツイベントのハイライトであるリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックには、卒業生を含め約20名が出場し果敢に世界に挑みました。蹴球部は全日本大学サッカー選手権大会において13年ぶり9回目の優勝を果たし、男子バスケットボール部はトーナメント・リーグ戦・インカレの三冠を達成しました。他にも文武両面において本学学生はしっかりとした成果を残してくれました。

大学における教育、研究、経営・運営の充実は、こうした学生の活躍を支える基盤となるものです。本学では、建学以来の特長であり強みである「国際性」と「学際性」を基軸に、その特長と強みを活かし、より高いレベルでそれらが発揮されるような取り組みを進めています。本年4月に運用を開始した日本人学生と留学生が生活空間を共有し国際感覚を磨く学生宿舍の整備、多様な分野が横断的に連携し研究を進める人工知能科学センターやブレイジョン・メディスン開発研究センター、トランスポーター医学研究センターの新設などはその代表的な事例

です。さらに、国立大学の基盤的経費が依然として厳しい状況にあるなか、多様な収入源の確保にも積極的に取り組んでいます。教育研究に対し広く社会からの寄附を募る仕組みであるクラウドファンディング、社会ニーズの高い専門的講座の受講者に受益者負担を求めるエクステンション・プログラムなど、新たな取り組みも開始しています。これらは、将来の本学の経営基盤を考えるうえで非常に重要な取り組み事例です。

また、変化が急激かつ大きな時代では、職業人の能力の鍛えなおしが常に求められます。大学を卒業し職業生活を送るなかで、再び大学で学びたいという要望は、本学の卒業生のみならず多くの社会人も当然抱くだろうと推察されます。その要望に応えるために、社会人にとって最適な教育プログラムの開発を進めたいと考えています。

このように、大学における全ての活動は、現在の社会情勢や将来の社会のあるべき姿の認識、またその実現のために解決すべき課題の考察を抜きに行うことはできません。その際に、課題が明らかになってから対応策を考えるのではなく、来るべき未来を想像し課題の発見と解決策を社会に先駆けて示すことが重要です。そうした努力が、本学の存在意義を一層明確化することにも繋がります。

茗溪会におかれましてはますますのご発展をお祈りするとともに、本学へのご支援をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

# 一般社団法人 茗溪会(平成29年度) 第6回定時総会議事(要旨)

一般社団法人茗溪会第6回定時総会は、平成29年5月25日(木)13時30分から茗溪会館2階「茗溪の間」において開催されました。議事に先立ち、高野常務理事より代議員総数10名のうち、出席58名、委任状による出席45名、合計103名の出席があり、定款第17条により定時総会は、成立するとの報告がありました。また、関連法人の筑波学都資金財団から2名、茗溪学園から1名及びオプザーバーとして沖縄県の代表1名が出席しているとの報告がありました。

江田理事長から、茗溪には、人を大事にする、先輩後輩の各世代が互いを尊重し力を出し合えるようにする文化、誇り高い伝統が継承されていると確信していること、また、茗溪会の一層の発展のために、組織力の強化、財政基盤の健全化、価値ある事業の更なる推進、茗溪会拡充キャンペーン活動に一九となつて取り組みたいなど本会の当面する最重要課題等が述べられました(P4参照)。

続いて筑波大学長は、公務と重なり欠席されたので、松村副学長から学長祝辞が代読されました(P5参照)。

## 議長就任、開会宣言及び議事録署名

常務理事から、定款第15条により理事長が議長につき、次いで、議長から、第6回定時総会を開催するとの開会宣言があり、定款第19条により議事録は議長及び出席理事全員が署名することになつて

いるが、第1号議案である議事録の署名押印に係る定款の一部変更が採択された場合は、本日の総会から適用したいとの説明があり議事に入りました。



高野 力 常務理事

## 審議事項

### 第1号議案 定款変更について

議長から、定款の一部変更である本議案は、総社員の3分の2以上の多数をもって決議することになつていて、関連して社員総会運営規程の一部変更は、理事会の発議により社員総会で行うことになつており、それらの変更は、3月理事会で承認を得ているとの説明があり、本議案は、一括提案説明、一括審議、一括承認の流れで諮りたいとの発言がありました。次いで、宮尾理事から、定款及び社員総会運営規程の一部変更案の変更理由、変更内容及び施行日について説明があり、これを受け、議長が一括して諮ったところ、本議案は賛成多数で可決承

認されました。本改正の施行日は平成29年5月25日で、本総会から適用されると、また、本改正による議事録署名人名には、福岡理事及び渡邊悟代議員を選任したいとの提案があり、賛成多数で選任されました。

### 第2号議案 平成28年度事業報告、決算書類及び監査報告承認について

議長から、本議案は一括提案説明、一括審議、一括承認の流れで諮りたいとの発言があり、次いで、常務理事から28年度の事業について、また、岩田局長代理から28年度予算・実績対照表、貸借対照表、財産目録、注記事項、正味財産増減計算書、財務諸表附属明細書、財務諸表に対する注記について、それぞれ概要説明があり、飯塚監事から、28年度会計期間における会計・業務の監査結果は、法令又は定款に違反する事実はなく適正と認めるとの報告がありました。続いて、常務理事から平成28年度公益目的支出計画実施事業について、また、岩田局長代理から28年度公益目的支出計画実施報告書の概要について、それぞれ説明があり、飯塚監事から28年度会計期間における公

益目的支出計画実施報告書の監査結果は、法令又は定款に違反する事実はなく適正と認めるとの報告がありました。以上を受けて、議長が、本議案を一括して諮ったところ、本議案は賛成多数で可決承認されました。

### 第3号議案 平成29年度事業計画(案)及び予算(案)について

議長から、本議案は一括提案説明、一括審議、一括承認の流れで諮りたいとの発言があり、これを受け常務理事から29年度事業計画(案)について、また、岩田局長代理から29年度予算(案)について、それぞれ提案説明があり、関連して、宮尾理事から、茗溪会館の大型修繕工事の実施及び工事費等について提案説明がありました。これに対して、代議員から、茗溪会館の大型修繕工事は、中長期的な方針や工事費等の具体的な実施計画を立てて臨むべきで、それらが明確に示されていないなどの意見が出されましたが、理事会で審議了承を得た上で実施する予定であるとして、議長から、本議案を一括して諮ったところ、本議案は賛成多数で可決承認されました。

### 第4号議案 役員を選任(監事1名)について

議長から、役員は、定款では本総会の決議によって選任されるが、欠員の監事1名の補充人事(任期は残存任期1年)について、4月理事会で慎重審議し合意を得たので本総会に上程したいとの説明があり、監事候補者として小島和雄氏を諮ったところ、異議なく賛成多数で選任されました。



岩田敏昭 局長代理



西川 潔 役員選考委員長

報告事項

(1) 茗溪会拡充キャンペーンについて

井口副理事長から、昨年度の茗溪会拡充キャンペーンの取組状況（会員登録増、会費等の収入増、諸経費削減）について概要報告があり、本年度も引き続きキャンペーン活動を強化し、当初の目標を達成したいので各地域組織においても会員登録等についてご尽力願いたい旨要請がありました。



井口武雄 副理事長

(2) 地域組織等活動の活性化について

川田理事から、次のような報告があり、それらを各地域組織で生かして欲しいとの発言がありました。①全国の地域組織

等の実態調査を行い、地域組織等活動の活性化に向けて、茗溪会の仲間へ役立ち、親睦をより深める互助事業についてとりまとめ、当面の地域組織等活性化事業計画を作成した。②ブロック会議は、国内組織9、国際組織1のブロックで構成し、継続性を重視し、意見等は適宜HP等でPRする。なお、本総会後にブロック単位の情報交換の場を設けた。③本部に対する要望等は22項目に集約し、見える化を図り丁寧に回答することとし、各地域組織等の実態に適切した当面の活性化事業計画案をとりまとめた。④ブロック代表者会議は、既に関東甲信越で開催したが、今年度は東海地区と近畿地区で開催したい。⑤筑波大学は総合大学であるため、今後、企業等の分野での人的ネットワーク作りとして、学生と企業人の交流促進や茗溪企業人等の会開催に向けた検討を重視し、茗溪・筑波大学産業人会等の交流会や茗溪経済クラブと筑波大学卒業生との情報交換会を開催したい。⑥教職志願学生への受験対策の充実では、教職受験対策研修会等を開催し、筑波大学との連携は、筑波大学茗溪会と密接に連携を図り、学生支援の充実を促進したい。



川田孝一 組織委員長

諸連絡等

(1) 会員登録・会費納入状況等について  
室岡局長代理から説明がありました。

(2) 各地域組織からの提出・報告・連絡文書について  
室岡局長代理から、地域組織等からの連絡文書の様式は、茗溪会HPからダウンロードしてそれぞれ提出期限までに提出願いたい、また、地域組織等所属の会員情報ファイルと過去10年間の筑波大学新入学生の高校別に集計したファイルを用意しているため、申し出願したいとの発言がありました。



室岡和彦 局長代理

(3) 代議員選挙について  
室岡局長代理から、代議員選挙規程及び29年度構成人員に基づく代議員推薦数について説明があり、代議員立候補届出書と代議員候補者推薦書は、各提出期限迄に提出願いたいとの要請があり、代議員選挙規程中、「支部」と明記されていた箇所は、「地域組織等」に変更したとの説明がありました。

(4) 関連法人の役員紹介等について  
関連法人である筑波学都資金財団の細田筑波研修センター事務局長及び武井学

生宿舍管理事務所長、並びに茗溪学園の田代中学校高等学校長から、それぞれ配布資料に基づき概要説明がありました。

閉会

江田理事長から閉会宣言がなされ総会は終了しました。

総会に引き続き、会場を4階に移して会員懇談会が開催され、江田理事長による挨拶、出席者による懇談が行われました。



# 平成28年度決算報告

## 貸借対照表

平成29年3月31日

(単位：千円)

科 目	平成28年度
<b>I 資産の部</b>	
<b>1. 流動資産</b>	
現金預金	127,778
未収消費税	0
前払費用	0
流動資産合計	127,778
<b>2. 固定資産</b>	
固定性預金	307,831
建物	664,891
構築物	4,470
機械装置	1,649
什器備品	930
土地	314,776
固定資産合計	1,294,546
<b>資産合計</b>	<b>1,422,324</b>
<b>II 負債の部</b>	
<b>1. 流動負債</b>	
前受金	21,755
未払法人税	9,262
未払消費税	0
預り金	493
流動負債合計	31,510
<b>2. 固定負債</b>	
長期借入金	0
退職給与引当金	2,776
満期共済金引当金	30,050
保証金	1,410,000
修繕費積立金	1,000
固定負債合計	1,443,826
<b>負債合計</b>	<b>1,475,336</b>
<b>III 正味財産の部</b>	
一般正味財産	△53,012
正味財産合計	△53,012
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>1,422,324</b>

## 正味財産増減計算表

平成28年4月1日から平成29年3月31日

(単位：千円)

科 目	平成28年度
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
<b>1 経常増減の部</b>	
(1) 経常収益	
基本財産運用収益	
地代収入	58,900
建物賃貸収入	23,976
正会員受取会費	26,722
茗溪フェロー会費	3,307
委託料収入	2,353
公告料収入	3,960
寄附金収入	107
受取利息	28
駐車場利用収入	1,763
雑収益	1,434
経常収益計	122,549
(2) 経常費用	
事業費	81,259
管理費	62,217
経常費用計	143,473
当期経常増減額	△20,924
<b>2 経常外増減の部</b>	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
固定資産除却損	0
経常外費用計	0
当期一般正味財産増減額	△20,924
一般正味財産期首残高	△32,088
一般正味財産期末残高	△53,012
<b>II 正味財産期末残高</b>	<b>△53,012</b>

## 収支計算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：千円)

<b>I 事業活動収支の部</b>	
<b>1. 事業活動収入</b>	
(1) 事業活動収入	
会費収入	30,029
正会員会費収入	26,722
フェロー収入	3,306
事業収益	89,189
地代収入	58,900
建物賃貸収入	23,976
委託料収入	2,353
広告料収入	3,960
寄付金収入	106
寄付金収入	106
雑収入	3,224
駐車場利用収入	1,762
受取利息収入	27
その他雑収入	1,433
退職給付引当預金取崩収入	0
退職給付引当預金取崩収入	0
事業活動収入計	122,549
(2) 事業活動支出	
事業費支出	89,837
管理費	17,882
予備費	
事業活動支出計	107,719
事業活動収支差額	14,829

# 平成29年度 一般社団法人 茗溪会 事業計画

## 1. 事業計画のねらい

- (1) 本年度は一般社団法人移行後6年目にあたり、将来を見通し、さらに事業を円滑に進めるための計画を実施する。
- (2) 公益目的支出計画に基づいて事業の推進を図る。
- (3) 茗溪会館の利活用を安定・向上させることを重点事業と捉え、取り組む。
- (4) 平成28年作成の中期将来計画に基づき、継続して事業を展開する。
- (5) 地域組織等の活動の充実・活性化事業を推進する。

## 2. 事業の目的 (定款第3条)

会員相互の親睦及び互助並びに知徳の啓発を図り、併せて国立大学法人筑波大学の目的及び使命の達成に協力し、学術、文化、教育並びに社会貢献活動及び国際相互理解の促進に資することを目的とする。

## 3. 事業の内容 (定款第4条)

- (1) 会員相互の親睦を図るための交流事業並びに会員の福祉を図るための共済に関する事業
  - ① 茗溪会拡充キャンペーンの継続実行
  - ② ホームページの充実による交流促進
  - ③ 追悼のつどいの実施
- (2) 定期刊行物その他出版物などの発行に関する事業
  - ① 季刊誌「茗溪」の発行…年4回
- (3) 研修会、講演会、公開講座等公衆の教養向上と地域社会への貢献に資する事業
  - ① 公開講座の実施
  - ② 地域組織等主催による公開講座への助成
- (4) 学術、芸術、社会貢献、国際相互理解等の顕著な活動に対する奨学、支援、表彰などに関する事業
  - ① 顕彰事業 (社会貢献活動功労者、筑波大学大学院生、筑波大学芸術関係)
  - ② 学生諸活動への助成事業
- (5) 財産の管理・運営に関する事業
  - ① 茗溪会館の利活用を安定・向上させる事業
- (6) 教育の振興、普及活動に資する事業
  - ① 筑波大学と地域組織等との交流
  - ② 筑波大学就職ガイダンスへの協力
  - ③ 教職受験対策研修会の開催
- (7) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

## 4. 前項の各事業は、全国において行うものとする

## 平成29年度予算書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：千円)

科 目	29年度予算	科 目	29年度予算	科 目	29年度予算
<b>I 事業活動収支の部</b>		(2) 事業活動支出		総会諸費支出	1,083
1. 事業活動収入		事業費支出	86,726	会議費支出	1,000
(1) 事業活動収入		給料手当支出	22,958	旅費交通費支出	885
会費収入	30,029	助成金支出	9,769	通信運搬費支出	5,149
正会員会費収入	26,722	式典費支出	500	集金費支出	2,411
フェロー収入	3,306	旅費交通費支出	700	什器備品費支出	557
事業収益	89,189	負担金支出	250	消耗品費支出	357
地代収入	58,900	通信運搬費支出	5,968	印刷製本費支出	780
建物賃貸収入	23,976	印刷製本費支出	3,952	会員データ管理費支出	3,574
委託料収入	2,353	租税公課支出	29,992	諸謝金支出	714
広告料収入	3,960	業務委託費支出	7,000	負担金支出	27
寄付金収入	106	光熱水料費支出	1,905	渉外費支出	196
寄付金収入	106	火災保険料支出	729	賃借料支出	754
雑収入	3,224	修繕費支出	3,000	雑支出	100
駐車場利用収入	1,762	管理費	20,501	予備費	2,000
受取利息収入	27	監事報酬	150	事業活動支出計	107,227
その他雑収入	1,433	給料手当	0	事業活動収支差額	15,322
退職給付引当金取崩	0	臨時雇賃金	688		
退職給付引当金取崩	0	退職金支出	0		
事業活動収入計	122,549	福利厚生費	67		

平成29年(2017年)

# 暑中お見舞い申し上げます



一般社団法人 茗溪会

<p>一般社団法人 茗溪会 理事長</p> <p><b>江田昌佑</b> (昭和30年卒教大体)</p> <p>〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 副理事長</p> <p><b>井口武雄</b> (昭和40年卒東京教育大学法政) 三井住友海上火災保険㈱</p> <p>〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9 TEL 03-3259-3111</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 副理事長</p> <p><b>西川 潔</b> 筑波大学名誉教授・博士(デザイン学) (昭和44年教大構成 昭和46年院修美)</p> <p>〒305-0031 つくば市吾妻3-1-1-109 e-mail:q.nishikawa@gmail.com</p>
<p>一般社団法人 茗溪会</p> <p>事務局長 <b>高野 力</b> (昭和48年卒教大木工)</p> <p>大塚事務所長 <b>室岡和彦</b> (昭和44年卒教大数)(平成01年卒筑修教)</p> <p>筑波事務所長 <b>立山雅博</b></p>	<p>一般社団法人 茗溪会 理事</p> <p>組織委員会 委員 <b>川田孝一</b> (昭和39年卒教大総農科)</p> <p>定時総会後に「仲間の顔が見える第1回 ブロック別懇談の会」を行いました</p> <p>〒194-0045 町田市南成瀬5-29-6 TEL 042-728-5423 連絡先 桜美林大学入試事務室 相談役 TEL 042-797-6196</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 理事 株式会社 ユーハイム</p> <p>代表取締役 会長 <b>河本 武</b> (昭和37年卒体育学部健康学科)</p> <p>〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-2-9</p>
<p>一般社団法人 茗溪会 理事</p> <p><b>五味田 優</b> (昭和47年卒教大国文)</p> <p>〒310-0911 水戸市見和1-377-16 TEL 029-221-9603</p>	<p>一般財団法人 筑波学都資金財団</p> <p>理事長 <b>田中正造</b> (昭和36年卒教大・健)</p> <p>〒305-0005 つくば市天久保1-13-5 TEL 029-851-5152</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 理事 福岡経営労務事務所</p> <p>所長 社会保険労務士 <b>福岡 一雄</b> (昭和32年卒教大法政)</p> <p>〒125-0042 東京都葛飾区金町3-27-3 TEL 047-361-2618 FAX 047-361-2643</p>
<p>一般社団法人 茗溪会 理事 学校法人 茗溪学園</p> <p>事務局長 <b>柴田 淳</b> (昭和52年卒教大体) (昭和56年筑修体)</p> <p>〒305-8502 つくば市稲荷前1-1 TEL 029-851-6611</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 理事</p> <p><b>渡部 史人</b> (昭和53年卒筑一自)</p> <p>会員諸氏による活力ある活動への支援を 引き続きご提供していきます</p> <p>〒112-0012 文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136 e-mail:info@meikei.or.jp</p>	<p>茨城県教育研修センター</p> <p><b>早川 源一</b>(昭和51年卒教大東洋史) <b>齋藤 文夫</b>(昭和53年卒筑大体専) <b>郡司 文児</b>(昭和53年卒筑大第一人文) <b>武井 一郎</b>(昭和54年卒筑大第一自然)</p> <p>〒309-1722 茨城県笠間市平町1410 TEL 0296-78-2121</p>
<p>一般社団法人 茗溪会 北海道茗溪会</p> <p>会長 <b>大沼 寛</b> (昭和47年卒教大体育・武)</p> <p>(事務局)〒004-0055 札幌市厚別区厚別中央 5-4-8-12-504 鶴野和憲方 TEL 011-802-8760</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 茨城茗溪会</p> <p>会長 <b>鈴木 一弘</b> (昭和58年卒筑院修教育)</p> <p>事務局長 <b>太田 泰助</b> (平成11年卒筑院芸術)</p> <p>(事務局)〒310-0011 水戸市三の丸3-10-1 県立水戸第一高等学校 TEL 029-224-2254</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 栃木茗溪会</p> <p>会長 <b>齋藤 宏夫</b>(昭和56年卒筑一人文) (昭和58年卒筑修教)</p> <p>事務局長 <b>小島 雄一</b>(昭和63年卒 筑一自然)</p> <p>(事務局)〒320-0847 宇都宮市滝の原3-5-70 TEL 028-633-1426 栃木県立宇都宮高等学校</p>
<p>一般社団法人 茗溪会 埼玉茗溪会</p> <p>会長 <b>前島 富雄</b> (昭和47年卒教大農木工)</p> <p>(事務局)〒362-0001 上尾市上703 TEL 048-771-6561</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 静岡茗溪会</p> <p>会長 <b>丹治 正</b> (昭和56年卒筑三基)</p> <p>県立静岡中央高等学校校長</p> <p>(事務局)〒420-8502 静岡市葵区城北2-29-1 TEL 054-209-2431</p>	<p>一般社団法人 茗溪会 茗溪会愛知支部</p> <p>支部長 <b>村松 利之</b>(昭和53年卒筑体育) 副支部長 <b>村松 常司</b>(昭和44年卒教大健康) 副支部長 <b>竹下 裕隆</b>(昭和59年卒筑修教) 事務局長 <b>川村 昌宏</b>(昭和58年卒筑修教)</p> <p>〒441-8064 豊橋市富本町(時習館高校・校長) TEL 0532-45-3171</p>

## 特集 人間 嘉納治五郎を語る

〔第1回〕

# オリンピックを 世界共通の文化にしたい

～嘉納治五郎の目指したオリンピック～



3年後の2020年(平成32年)8月に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向かって、いまメイン会場となる国立競技場や各種競技場の建設現場では工事の槌音が響きわたり、そしてオリンピック・パラリンピックへの出場をめざす選手の方々は厳しいトレーニングを続けています。

わが国で初めてオリンピックが開催されたのは、1964年(昭和39年)ですが、実はそれより24年前の1940年(昭和15年)に、アジアで初めてのオリンピックが東京で開催されることになっていました。そしてこの東京オリンピックの招致に貢献したのは、アジアで最初のIOC委員であり、東京高等師範学校の校長であった嘉納治五郎です。

残念ながらこの東京オリンピックは戦争のために中止になってしまいました。戦後の1964年に東京オリンピックが実現した陰には、戦前の嘉納治五郎の働きが大きかったという評価もなされています。

そこで、この特集の第1回は、東京オリンピックの招致に奔走した嘉納治五郎の活躍する姿を追いながら、彼は東京でどのようなオリンピックを実現しようとしていたのかを探ります。

話し合っていたのは、筑波大学教授の真田久さんと茗溪会理事長の江田昌佑さんです。

### 【IOCのトーマス・バッハ会長、 嘉納治五郎と東京オリンピックについて語る】

江田 昨年秋、IOCのトーマス・バッハ会長がわが国を訪れた際、筑波大学から「名誉博士号」を授与され、その時の講演で、彼は「嘉納治五郎は近代オリンピックのために大きな貢献をしたばかりでなく、スポーツが教育に欠かせないものであると認識していた優れた教育者であった」と熱く語ったと聞いています。真田さんはその場にいらしたそうですので、まずその時の講演の内容から今日の話を進めていきたいと思っています。

### 近代オリンピックに対する嘉納の貢献を高く評価

真田 昨年の10月20日に、筑波大学はIOCのバッハ会長に名誉博士号を授与させていただきました。実はこの10月20日という日は、10年前にIOCの前会長のジャック・ロゲさんに名誉博士号をお渡しした日と同じ日であり、そして東京オリンピックの本格的な招致活動が始まるきっかけになった日でもありました。

そんなこともあり、同じ日にバッハ会長に名誉博士号をお渡しできたということは、この日がわが国の新しいオリンピック・ムーブメントが始まる日になるのではないかと強く感じた日でもありました。

バッハ会長の講演のテーマは「オリンピックの価値とスポーツと教育の役割」というものでしたが、その講演の中で彼は「嘉納治五郎氏は近代オリンピックの基礎を築き、国際オリンピック委員会の創始者でもあるピエール・ド・クーベルタン男爵と同様に、スポーツが教育に欠かせないものであると認識していた教育者である」と嘉納治五郎の近代オリンピックに対する考え方や貢献を高く評価するとともに、「クーベルタン氏や嘉納氏の考えが、ここ筑波大学で現在も生きていることを目の当たりにして感無量であり、そういう筑波大学からいただいた名誉博士号はIOC会長一人のためのものではなく、オリンピック・ムーブメントに関わるすべての人にとっての名誉である」と語っていました。



IOCバッハ会長と  
筑波大学永田学長

江田 バッハ会長がその講演の中で、「嘉納治五郎がIOCの歴史の中でクーベルタンと並んで高い評価を得ていたこと、そして、スポーツを教育に欠かせないものであると認識していた教育者であった」と話されたということをお聞きし、私も大きな感動を覚えました。



【江田昌佑さんの略歴】

1955 東京教育大学体育学部卒業  
1977 筑波大学教授  
1992 筑波大学副学長  
1996 鹿屋体育大学学長  
現在、一般社団法人若溪会理事長

東京オリンピックは新しいオリンピック・ムーブメント  
実現のための最初の大会である

真田 この日のバッハ会長の講演でぜひお話ししておきたいことがもう一つあります。それは2014年にバッハ会長が提唱したオリンピック・ムーブメントの未来に向けた改革案「オリンピック・アジェンダ2020」について熱く語っていたことです。

「オリンピック・アジェンダ2020」というのは、現代社会におけるスポーツの大切さやスポーツの役割を明らかにし、「社会に対してスポーツはどのようなサービスを提供できるか」ということをきちんと考えながら、新しいオリンピック・ムーブメントを構築していくというもので、「オリンピック開催のためのコストの削減」や「大会運営の柔軟性」や「オリンピックの開催が社会や市民に対してどのような貢献ができるか」を求めています。

そして、その新しいオリンピック・ムーブメントを構築していくための最初の大会が2020年の東京オリンピックなんだということをバッハ会長自らが語ってくれたのです。

### 【嘉納治五郎、アジアで最初のIOC委員に選ばれる】

江田 バッハ会長からも高い評価を受けた嘉納治五郎ですが、彼は1909年(明治42年)にアジアで最初のIOC委員に選ばれ、その後、国際的にもまたわが国のオリンピック招致活動にも大活躍することになります。まずその頃のオリンピックを巡る世界の動きを押さえておきたいと思います。

### クーベルタンが「近代オリンピック」を提唱

江田 1894年6月のパリ国際スポーツ会議で、クーベルタンの提唱により、「近代オリンピックの創始」と「国際オリンピック委員会の設立」が決まり、1896年には第1回の近代オリンピックがギリシャのアテネで開催されます。

しかし、この時代のオリンピックを仕切っていたのはヨーロッパの政界や財界の有力者で、クーベルタンの「オリンピックは教育的なものでなければならぬ」という考え方は必ずしも受け入れられるものにはなっていませんでした。

また、この頃、ナショナリズムが高揚し、政情も不安になってきており、クーベルタンはこうした問題への対応も求められていました。



【真田 久さんの略歴】

1979 筑波大学体育専門学群卒業  
1981 筑波大学大学院体育研究科修士  
2008 筑波大学体育学系教授  
2012 筑波大学体育専門学群長  
専門は、スポーツ人類学・嘉納治五郎の研究

真田 クーベルタンは近代オリンピックの提唱者ではありませんが、実はこの頃、IOCの中で、必ずしも高い支持を集めている状況にはありませんでしたし、いろいろな問題を抱えていました。

例えば、1986年のアテネオリンピックは成功するのですが、1900年のパリ大会は博覧会と一緒に行われ、期間は半年以上になり、ぼつりぼつりとやっていたために全然盛り上がりませんでした。そして、次の1904年のアメリカのセントルイスで開かれた大会も万国博覧会の付属という位置づけだったので、この大会もまた盛り上がりやうを欠く大会となっていました。

クーベルタンの提唱で近代オリンピックがスタートしたにも関わらず、そのような状況が続いたために、「ギリシャには古代からのオリンピックの歴史があり、スタジアムがある。そこでやることに意味がある」という声が高まり、IOC委員の多くもこの意見に賛同して、この案が通りそうになってしまいました。

しかしクーベルタンは、「オリンピックは各国の持ち回りややっていくべきである」と考えていたので、相当の危機感を持ち、IOC委員をもっと増やして委員会の雰囲気を変えていこうと考えるようになりました。

そしてクーベルタンは、日清戦争、日露戦争が終わって、世界の東の端で近代化を成功させた日本からも委員を参加させたいと考えたと思われれます。

### 嘉納治五郎がIOC委員に選ばれるまで

江田 嘉納治五郎がIOC委員に推挙されるにあたっては駐日フランス大使のオーギュスト・ジェラルドが大きな役割を果たしています。

彼はクーベルタンが作った新しいオリンピック学研究会の主要メンバーで、クーベルタンの考え方をよく理解している人ですが、この人が友人のロシア公使の本野一郎に相談したところ、本野は嘉納治五郎を強く推薦したようです。

クーベルタンの考える新しいオリンピックイズムというのは、「商業主義、政治主義、ナショナリズムが勝ちすぎてはいけない。教育を土台にしなければいけない」という考え方ですから、わが国にあってスポーツや体育を中心に据えて教育改革に取り組んでいた嘉納治五郎はIOC委員にびつたり的人物だったのです。

**真田** 嘉納治五郎がIOC委員に選ばれたあたり、実はラフカディオ・ハーンが書いた「柔術」という作品も影響していたという面白い話もあります。

ラフカディオ・ハーンは嘉納が旧制の第五高等学校の校長であった時に、英語教師として迎えられているのですが、この時に嘉納の柔道を見て、日清戦争の直後の1895年(明治28年)に「柔術」という作品を英語で発表します。

その作品の内容は、「日本が近代化を成し遂げることでできたのは、柔術の、相手の力を利用して勝つ」という考え方があるからである。この考え方があるのも日本は西洋に決して支配されることはないし、西洋が支配しようと思っただけで柔術でやられてしまふ。」というものです。

そしてその読みの通り、日本は日露戦争に勝ち、ラフカディオ・ハーンが書いた日本観がヨーロッパに広がっていききました。

クーベルタンもそういう日本に強い関心を持っていたのではないのでしょうか。

## 【嘉納治五郎とオリンピック・ムーブメント】

**江田** 嘉納治五郎はIOC委員になってから、世界を舞台にオリンピック・ムーブメントに積極的に関わっていくようになりますが、それはオリンピック・ムーブメントというものが、嘉納にとってまったく違和感がなかったからではないでしょうか。

**真田** 嘉納治五郎がIOC委員になった1909年(明治42年)という年は、1882年(明治15年)に嘉納が講道館柔道を始めてからすでに27年。高等師範学校の校長になったのが1893年(明治26年)ですからこ

らも16年を経ています。

つまり、嘉納はIOC委員になるまでに、柔道でも、スポーツでも、教育でもいろんな実践を積み、大きな成果をあげていますから、嘉納にとってオリンピック・ムーブメントというのはまったく違和感なく受けとめることができた施策であり運動だったのだと思われまふ。

## 嘉納の実践1. 友好理念の育成

**真田** 嘉納治五郎はそのころまでに、宏文学院や東京高等師範学校で、中国清朝からの留学生を多数受け入れて、体育をほとんどやったことのない学生に対しても、スポーツや柔道をやらせて日本人学生との交流を進めていました。

また、東京高等師範学校には留学生の蹴球チームができていて、他の師範学校との対外試合でも日本人学生が応援するのが当たり前になっていましたから、スポーツを通した青年たちの国を超えた交流が日常的に行われていました。

ですから、IOC委員になってもオリンピックの理念はすぐに理解できたし、オリンピック・ムーブメントにも積極的に関わっていくことができたのです。

## 嘉納の実践2. 国民体育の推進

**真田** 嘉納のオリンピック・ムーブメントの取り組みで、もう一つ忘れてならないのは「国民体育の推進」です。

この国民体育というのは、いまでいう生涯スポーツにあたると思いますが、嘉納はオリンピック・ムーブメントを通して、「わが国のすべての国民がスポーツに参加し、スポーツを楽しんでほしい」という願いを実現させようと考えていたのです。

## 【嘉納治五郎と東京オリンピック招致活動】

**江田** わが国は1923年(大正12年)の9月1日に関東大震災に見舞われましたが、当時大日本体育協会の名誉会長を務めていた嘉納治五郎は「震災からの復興のためにもこの年の日本選手権を開催しよう」「翌年のパリオリンピックにも選手を派遣しよう」と決断します。

そして、震災で大きな痛手をこうむった日本が、パリオリンピックに参加し、大活躍したということが、1931年(昭和6年)から始まる東京オリンピック招致活動の大きな力になったとも聞いています。

## 招致活動に大きな影響を与えた日本選手のオリンピックでの活躍

**真田** 1923年の9月1日、東京は大震災で壊滅状態になってしまい、大日本体育協会の理事会では翌年のパリオリンピックに参加するかどうかが議論されましたが、座長の嘉納治五郎は「こういう時だからこそ、日本は震災に負けてはいないことを示すべきである。」と主張し、オリンピック出場が決まりました。そしてパリ大会では、日本人選手は嘉納の決断に応じて大活躍をします。

- レスリングで内藤克俊が銅メダル。
- 水泳では競泳の800mリレーで4位。
- 1500mと1000m競泳で高石勝男選手が5位。
- 100m背泳ぎで齊藤魏洋が6位。
- 陸上の三段跳びで織田幹雄が6位。

このように震災の翌年のパリオリンピックで日本選手が活躍したことが、その後のアムステルダム大会、ロサンゼルス大会、ベルリン大会での日本選手の活躍につながり、そして1940年(昭和15年)の東京オリンピックの招致活動にも大きな影響を与えたということとは間違いのないと思います。

## 嘉納治五郎の東京オリンピック招致に向けた主張

江田 震災からの復興もなった1931年、東京市会はオリンピックの東京招致を決議します。

そしてそこから嘉納治五郎の全精力を傾けた東京オリンピック招致活動が始まります。

では嘉納は東京にオリンピックを招致するにあたってどのような主張をしたのでしょうか。

それは、「オリンピックは世界共通の文化にすべきである」という彼の考え方に基づくものでした。

東京でオリンピックを開催するためには、当時はまだ飛行機は発達していませんから、移動するためには船を使うか、シベリア鉄道を使わなければなりません。しかしどちらにしても日本に来るまでに2週間以上かかりましたから渡航日数が長く、旅費がかかりすぎるということも多く、IOC委員が東京開催に反対していました。

しかし嘉納はそれを逆手にとって、我々日本は毎回大変な時間をかけてヨーロッパにきているのだ。一度くらいヨーロッパから日本に来てもいいのではないかと主張します。

そして、「近代オリンピックは、古代ではギリシャに限られていたオリンピックを世界の文化にしようとしたのではないか。そうであるならばこれまでヨーロッパとアメリカでしかやっていないオリンピックをアジアでやってこそオリンピックが本当の意味での世界の文化になるのではないか。」と主張し、IOC委員たちを説得し、1936年のIOC総会で1940年の東京オリンピックの開催を決定に導いたのです。



## 東京招致のためのパンフレット

真田 ここに東京オリンピック招致のために作成したパンフレットがあります。東京にオリンピックを招致するためには、日本をもっと知ってもらわなければならないということで、日本紹介のパンフレットとアルバムを作りました。嘉納治五郎もこれをもって招致活動を展開しています。



(右) 東京招致のためのパンフレット

## 札幌での冬季オリンピックも決まっていた

真田 そしてこれは札幌での冬季オリンピック招致のためのパンフレットです。

このことは意外と知る人が少ないのですが、同じ時期に、東京オリンピックだけでなく、札幌での冬季オリンピックの開催も検討されていたのです。

ただ、冬季オリンピックについては、IOCとスキー連盟の対立があつて、なかなか決まらないうのです。ですが、これについても1938年のカイロでのIOC総会で、東京オリンピック開催が再確認された時に、札幌での冬のオリンピックも決定されたのです。



札幌冬季オリンピック招致のためのパンフレット

(左) 東京招致のための日本紹介アルバム



東京オリンピック招致に喜ぶ人々 (講道館所蔵)

## 【戦争のために開催が危ぶまれた東京開催】



IOC総会に向う嘉納治五郎  
1936年(講道館所蔵)

## 東京開催を再確認させた嘉納治五郎の頑張り と帰国途上の死

江田 東京オリンピックの開催は、1936年のIOC総会で決定していましたが、1937年(昭和12年)に満州事変が起こり、1937年(昭和12年)には日中戦争も勃発して、IOCでも東京開催は不可能ではないかという声が高まってきました。

そのため、嘉納治五郎は1938年にカイロで開かれたIOC総会で、「近代オリンピックは政治の影響を受けてはならない」と主張し、東京オリンピック開催と札幌の冬季オリンピックの開催を再確認させることができました。

この後、嘉納治五郎はIOCの委員にお礼回りをし、氷川丸で帰国の途に就くのですが、日本につく2日前の5月4日に船上で亡くなるのです。

77歳でした。

そして、この嘉納のあまりにも劇的な亡くなり方に対して、アメリカの新聞は「古代ギリシャがマラトンの戦いで勝利したことを一刻も早く告げるために走り続け息絶えたあのマラトンの勇者のようだ」と報じていました。

嘉納治五郎の訃報に接したIOC委員たちの  
哀悼の言葉

真田 嘉納治五郎が亡くなったことを知ったIOC委員たちは、驚きとともに次のような哀悼の言葉を寄せています。

※ラッセル伯爵 (IOC会長、ベルギー)

IOC会長のラッセルは、

「嘉納氏は真の青年の教育者であった。我々は氏の想い出を長く座右の銘として忘れない。あたかも兵士のごとく氏は自己の義務を遂行しつつ逝った。しかし氏はもっと永く生きて生涯の夢であった東京オリンピックを見るべきであった。この東京オリンピックこそ、氏が日本のスポーツを今日の高き水準に引き上げるために費やした永年の労苦に対する報酬であった。」と述べています。

※カール・ディーム (ベルリン大会事務総長、ドイツ)

カール・ディームは、スポーツ史家でもあり、聖火リレーを始めた人としても有名ですが、彼は、「氏とは1913年以来的の親しい知友で全く感無量である。氏は世界で稀にみるスポーツ教育の総合的人格者であり、氏の逝去は日本にとつて痛惜に堪えない。」と述べています。

カール・ディームもスポーツ教育を提唱していましたが、その人から「スポーツ教育の総合的人格者」と評価されたことは価値あることだと思えます。

※ブランドー (IOC委員、アメリカ)

当時はまだIOC委員で、アメリカのオリンピック委員会の会長であったブランドーは、「嘉納氏は立派な「侍」であり、典型的な教育家であり、そのスポーツに対する貢献は長く追憶されるだろう。」と述べています。

また、嘉納治五郎と同じ氷川丸に載っていた日本人の外交官の平沢和重はこんなことを述べています。

「あと二日で横浜だといつところまで来て急逝された先生の今わの心境を思う時、万感こもこも至らざるを得ない。奇しき縁で先生の輝かしき八十年の生涯の最後の十一日間というものを文字通り起き伏しをとにした私は、今こうして御遺骸の安置された隣室で思いをその走るままにしたためている私は、心から東京オリンピックの成功を祈らざるを得ないのである。」

戦争のために、東京オリンピックはついに中止となる

江田 嘉納治五郎のこうした命を懸けた働きにも関わらず、戦争はますます激化し、1940年の東京オリンピックはついに中止となってしまいます。

そして、1948年に戦後の最初のオリンピックがロンドンで開かれますが、わが国は戦争の責任を問われて参加することはできませんでした。

しかし、氷川丸の船上で嘉納の最後をみとった平沢和重が、1959年のミュンヘンでのIOC総会で、国語の教科書を手にもって「オリンピックは日本の学校のすべてで教えられている」と力説して東京オリンピック招致のための素晴らしいスピーチを展開。

また、嘉納の永年の友人であったIOCのブランドー会長の強い支持もあって、ついに東京でオリンピックが開催されることになりました。

そういう意味では、1964年(昭和39年)の東京オリンピックの開催にも嘉納治五郎の戦前のIOC委員としての働きが生きていたということができるかもしれません。

## 2020年の東京オリンピックに

### 向けての提言

江田 2020年、わが国で2度目の夏のオリンピックが開催されます。しかし、経費負担のあり方などを巡ってまだまだに「ごたごた」が続いており、早く正常化して

ほしいと願うばかりですが、2020年の東京オリンピックをバツハ会長のいうような社会に貢献するようなオリンピックにしていきたいためには何が必要かを、最後に考えていきたいと思えます。

### オリンピック・ムーブメントでいま求められていること

**真田** オリンピック・ムーブメントでいま求められていることは、いかに多様性を認めていくかということだと思います。

つまり、いろんな人がオリンピック・ムーブメントに参加し、スポーツをする、スポーツを楽しむことができるということが一番大事なのです。

そして、嘉納治五郎は、そういう実践を積み重ねてきた人物だったと思うのです。

障害のある子どもたちにもスポーツを積極的に行わせていましたし、留学生に対しても分け隔てなくスポーツをさせていました。

また嘉納治五郎の「国民体育」という考え方は、「お金のあるなしにかかわらず、年齢にもかかわらず、男女ということにもかかわらず、運動のうまい下手ということにもかかわらずに、スポーツをやる、スポーツを楽しむ」ということです。それから、オリンピック・ムーブメントというのは、まさに嘉納治五郎の願いそのものであったと言ってもいいのではないのでしょうか。

### オリンピック・ムーブメントを 実りあるものにしていくために

**真田** 嘉納治五郎は、スポーツでも教育でも「自他共栄」でなければならぬと考えていました。

「自他共栄」というのは、文字通り「相手を敬い、お互いに信頼しあい、自分だけでなく他人とともに栄える」という考え方ですが、オリンピック・ムーブメントをもっと世界に広げていくためには、私は嘉納の「自他共栄」という考え方もっと発展させていく必要があるのではないかと思うのです。

オリンピック・ムーブメントもまだ世界共通の文化にはなっていない。欧米、アジア、オセアニアでは広がりつつありますが、それ以外の国や地域の人々にはまだ浸透しているとはいえません。

中東の人々、イスラム圏の人々、アフリカの人々も含めて、新しいオリンピック・ムーブメントのあり方を考えていくことが必要なのではないでしょうか。

そして日本国内にあつては、いま「働き方を変えよう」という動きも出ていますが、私は2020年の東京オリンピックに向けてのムーブメントとして、例えば「一週間に一度は五時に帰ってスポーツをやるうとか、ボランティアをやるう」とか、そのような社会のあり方や私たちの暮らしのあり方を変えていくことが必要なのではないかと思うのです。

そうでないと、折角東京でオリンピックを開催しても、終わった後に何も残らないということにもなりかねません。

「オリンピックを開催したことにより生活が豊かになった」「スポーツが身近なものになり精神的にも余裕が生まれてきた」というように、社会が変わっていくことがいま求められているのではないのでしょうか。

### 東京オリンピックでは どのようなレガシーを残していけるのか

**江田** 先ほど真田さんから、バツハ会長は「スポーツは社会に対してどのような貢献ができるのか。どのようなサービスができるのか」ということが、新しいオリンピックの課題であると語ったとうかがいました。

これは嘉納治五郎の問題意識と同じです。嘉納は、「柔道は自分の人格を高め、社会を補益するのだ」と言っています。社会を補益するとは、社会の足りないところを補っていく、もっと豊かにしていくということですから、バツハ会長が願っていることと同じです。

しかし残念なことに、2020年の東京オリンピック

をどのようないオリンピックにしたいのか、どのようなレガシーを次世代に残していこうとしているのかはまだ見えてきません。

私は、今度の東京オリンピックで求められるのは、一つは、真田さんがいうように、スポーツを通して、働き方が変わり、精神的にもゆとりのある暮らしを構築することではないかと思うのです。

そしてもう一つは、東京オリンピックを契機に、商業主義になつていくオリンピックから脱し、教育に回帰すべきであろうと考えているのです。

ここでいう教育とは、知識とか勉強とかそういうものではなく、人間性を豊かにしていこうということだと思います。

オリンピックを通して、嘉納治五郎やバツハ会長が求めているような「社会にどのような貢献ができるか、どのようなサービスができるか」を考え、実践できるような人間を育てたいと思うのです。

**江田** きょうは嘉納治五郎の目指したオリンピックがどのようなものであったかを探りながら、2020年の東京オリンピックをどのようなものにしていったらいいかを、真田久さんと話し合っていました。

今回は秋号で、「嘉納治五郎の求めた柔道の理念」について、山口香さんと考えてまいります。



少年を指導する嘉納治五郎  
(講道館所蔵)

# 筑波大学はいま

## 平成29年度入学式を執り行いました



桜の花が一気に満開を迎えた4月7日、つくば国際会議場において、平成29年度学群・理療科教員養成施設の入学式、ならびに大学院入学式を挙行了しました。学群2、217人、編入学生118人、及び理療科教員養成施設入学生20人、大学院2、511人が本学で新たな一歩を踏み出しました。

## 留学生と一緒に暮らすシェアハウス型学生宿舎グローバルヴィレッジがオープン

本学筑波キャンパス内に、留学生と日本人学生のシェアハウス型の学生宿舎「グローバルヴィレッジ」がオープンし、4月5日に新入生と留学生あわせて259人が入居しました。

グローバルヴィレッジは本学の掲げる「国際性の日常化」の一環として整備された宿舎です。1ユニットは、共用の玄関、リビングダイニング、シャワールーム、トイレと各個室で構成され、5人でシェアします。敷地内には別館の交流棟「コミュニケーションステーション」があります。スタディールーム、ラウンジ、和室やコミュニケーションキッチンを備え、様々な国際交流イベントなどで利用することができます。



コミュニケーションステーション(手前)と居住棟

## 筑波大学科学技術週間 キッズ・ユニバーシティ

4月22日、毎年恒例の科学技術週間のイベント「筑波大学 キッズ・ユニバーシティ」が実施されました。「一日筑波大生になって科学の面白さや大学の魅力を体験してもらおう」ことを目的とした、特別授業、体験教室、工作教室、観察ツアー等、盛りだくさんのイベントです。この名称で実施して今年で6回目になります。

当日は天候に恵まれ、数多くの子どもたちや保護者などが訪れました。

毎年配布している「学生証」(有効期限は筑波大学に入学するまで)は今年も好評で、300人以上のキッズが受け取りました。



特別授業「本物のチャンピオンになってほしい」オリンピック柔道銀メダリストの平岡拓晃さんに質問

## 平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を本学研究者4名が受賞

平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」及び「若手科学者賞」を本学所属の研究者4名が受賞しました。

科学技術分野の文部科学大臣表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を取れた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的として行われているものです。

- 科学技術賞(理解増進部門)
- 土井裕人助教(人文社会系)

「イノベーションを共創する市民参画型研究の普及啓発」

- 若手科学者賞
- 伊藤良一准教授(数理物質系)

「グラフエントの多孔質化による高効率エネルギー利用達成の研究」

林 悠准教授(国際統合睡眠医科学研究機構)

「レム睡眠の意義とメカニズムに関する研究」  
都甲 薫助教(数理物質系)

## INNOVATION WORLD FESTA 2017を開催

6月3日につくばカピオで、テクノロジーと音楽の祭典「INNOVATION WORLD FESTA 2017」を本学と「WAVE」で共同開催しました。

トークセッションやワークショップには、システム情報系の岩田洋夫教授、三谷純教授、図書館情報メディア系の落合陽一助教が出演しました。他にも、学生が中心となって各研究室で開発された最先端のテクノロジー、パーソナルモビリティ「CaryoOto」、視覚拡張ウェアラブルデバイス「Bionic Scope」、空圧式人工筋肉「Cyber Protection Suit」、巨大ロボット「Big Robot」、ジャケット型デバイス「LIVE JACKET」などを体験できる筑波大学ブースを出展しました。

企画段階から数多くの学生が参加し、一部トークセッションの演出、ダンスパフォーマンスと映像演出、屋外フードコートの企画、当日の運営などに携わりました。

会場には、およそ3,800人の来場者が訪れ、大盛況のうち閉幕しました。



およそ80人の学生スタッフが運営に携わりました

# 茗溪会のつくば地区公開講座

## 「花のある暮らし」

### Part・2

講師 水戸植物公園園長  
NHK趣味の園芸 講師

西川 綾子 (茗溪会 理事)

(平成29年6月17日(土)  
筑波研修センター)



昨年に引き続き、朝日新聞の茨城県版に連載されたエッセイ「花のある暮らし」をテーマに、私の思い出の植物と自分のエピソードを紹介しました。では、その中から一部を抜粋して紹介します。

#### 1 夏の青空に映える「キョウチクトウ」

初夏から夏、常磐高速道路の守谷市付近を車で通ると道沿いに、キョウチクトウが咲いているのが見えます。インドが原産のキョウチクトウ科キョウチクトウ属のキョウチクトウは、葉や茎から出る乳液に有毒成分が含まれているので、口にいたり枝を箸に利用してはいけません。生の枝や葉を燃やしてもいけません。植えたり花を觀賞するだけなら大丈夫。高速道路沿い

に植えられるのは、葉にある毛が気孔から有害物質が入るのを防ぐフィルターの役目をしているから、公害に強いのでしょうか。

ところでキョウチクトウは、高校1年の夏の日も、私の側で咲いていた花です。

中学生の時プールで泳ぐときは、紺のスクール水着が定番でした。でも高校生になったんだし〜という訳で、友人たちと銀座の三愛まで水着を買いに出かけました。私はビキニ？いえいえ、かわいいワンピースの水着を購入しました。あこがれの彼を誘う事はできず、結局幼なじみたちと近所のプールにでかけました。

まだ濡れている髪を風になびかせ、おしゃべりしながらの帰り道で、咲いていたのがキョウチクトウでした。

夏に始まり夏に終わるキョウチクトウの花を見ると、キラキラしていた少女時代を思い出ししてしまうので。(グラビア参照)

#### 2 英名はコーンフラワー「ヤグルマギク」

キク科ヤグルマギク属のヤグルマギクは英名をコーンフラワーと言つて、原産地のヨーロッパでは、小麦畑で雑草扱いされる厄介者です。

でも古代エジプト王ツタンカーメンのミイラの胸に抱かれていたのはコーンフラワーの花束だったそうで、古くは魔除けや薬草として利用されていました。

私が初めてヤグルマギクの種を見たのは、小学生の頃に定期購読をしていた教育雑誌「科学と学習」の付録です。植物の種はアサガオのように大きいものや球形のイメージがあったので、まるで小さなイカが泳いでいるような不思議な形の種に「芽が出るのかな？」と思いがながらタネをまきました。春になり、青や桃の花が咲いたときは大喜びでした。

栽培のポイントはよく光に当て、堆肥をあげすぎないことです。体が大きくなりすぎると、倒れてしまうからです。青い花は乾燥させても色が残って美しいです。(グラビア参照)

#### 3 葉の臭いに注意「ヘクソカズラ」

江戸時代、八代将軍徳川吉宗の命で、サクラの苗木が1200本あまり植えられ、花見の名所となったのは飛鳥山公園(東京都北区)です。じつは子供の頃、私が遊びまわった思い出の場所なんです。

夕暮れ時、園路の街灯がともり、コウモリが数匹飛び始めると我に返ります。「早く帰らないとー!」あわてて走り出します。そのとき、土手で小さなラッパ形の花を見つめました。白っぽい花の中央部は紅紫に染まって愛らしく、葉はハート形の蔓性植物です。「かわいい!見たことない花。大発見かも」と、思わず手を伸ばし触れたら、何やら怪しい香りが…。当時の東京は野良犬が多かったから、あれを間違つて踏んじやったかな?と思いつつ、再び走り出しました。

家に帰って図鑑で調べて納得。正体は「ヘクソカズラ(屁糞葛)」でした。アカネ科ヘクソカズラ属で、至る所に生える雑草です。秋に飴色に実る果実はしもやけに、葉は虫さされに効果がある薬草でもあります。でも臭いは強烈ですからご注意ください。

花言葉は臭いで人を寄せ付けないから「人嫌い」。花をアップで見れば愛らしく「早乙女花」の別名もあるのに、ヘクソカズラとは何とも気の毒な名前でないません。(グラビア参照)

#### 4 散り方に潜む魔力「サクラ」

バラ科サクラ属のサクラは、多くの人に愛されている日本を代表する花木です。咲き始め、満開、散り始め…どんな状態でもサクラは絵になりますが、皆さんはどんな状態のサクラが好きですか?私は花吹雪のように、辺り一面花びらが舞う姿がとても好きです。

小学生のとき、国語の教科書にこんな詩がありました。

「花ふぶき」 阪本越郎  
さくらの花の散る下に、  
小さな屋根の駅がある。

白い花びらは散りかかり、  
駅の中は花びらでいっぱい。  
花びらは男の子のぼうしにも、  
せおった荷物の上にも  
来てとまる。

この村のさくらの花びらをつけたまま  
遠くの町へ行く子もあるんだな。

待合室のベンチの上にも、  
白い花びらは散りかかり、  
旅人は、花びらの上にこしかけて、  
春の山脈をながめている。

小学校の遠足で秩父鉄道線「御花畑駅」の前を通った  
時、先生が立ち止まり「あの詩に出てくる駅は、こんな  
小さな駅でしょう。名前もぴつたりですね。」と詩の解説  
をして下さいました。

サクラの花びらも旅人と一緒に旅をするのだろうか：  
そんなことを思っって小さな駅を見つめていました。  
そして大人になってから、京都で円山公園から清水に  
向かう途中、偶然見つけたのは西行庵。平安時代の歌人  
である西行法師と言えば、山家集のこの歌です。

願はくは花の下にて春死なむ その如月の望月の頃

花はサクラと言われています。  
吹雪のように花びらが散る様は何ともドラマチックで  
す。私もサクラのように鮮やかに生きたい、そして最期  
は西行さんと同じかな。サクラにはそんな気持ちにさせ  
る不思議な魔力があります。

## 5 赤く上品 凜々として「ダンドク」

「温室の改修に伴い、お譲りできる植物があります。」  
今から10年ほど前、東京都にある名園「新宿御苑」から  
こんな連絡が来ました。そこで分けていただいたのがド  
ンドクです。

カンナ科カンナ属で、原産地は熱帯アメリカ。日本に

は江戸時代に渡来しました。草丈は1mを超え、地下に  
はショウガのような根茎があります。  
花壇の主役カンナはダンドクを交配親にした園芸種で  
す。ダンドクはカンナのような派手さはありませんが、  
凛とした立ち姿が上品な赤い花です。

ところでダンドクを分けて下さった新宿御苑ですが、  
昨年、開園して百十周年を迎えました。

明治時代は西洋の農業技術の研究や、指導者を育成す  
る試験所だったのが、明治39年(1906年)、皇室外交  
を目的に皇室庭園として大改造されました。

設計を手がけたのはフランスのベルサイユ園芸学校長  
であるアンリ・マルチネ(1867~1936)です。多  
くの資料は残念な事に焼失してしまったそうですが、な  
んとか復元された鳥瞰図を見ると迎賓館を造る事になっ  
ていて、その前がフランス式庭園で、後ろにはイギリス  
風景式庭園が広がり、特に奥行きを深めるためのピスタ  
ライン(見通し線)が効果的に設計されている、日本の  
西洋庭園の先駆けでした。

今では春はサクラ、近代的な温室も魅力ですが、庭園  
としての奥深さも楽しんでいただきたい名園です。

## 6 葉、染料、お茶に「チョウマメ」

数年前、岐阜県各務原市にある内藤記念くすり博物館  
附属薬用植物園を訪ねたとき、温室で苗を見つけました。  
「あ、チョウマメ。葉草だったんですね。」と思わず声を  
あげてしまいました。

東南アジア原産の多年草ですが、寒さに弱いので日本  
では1年草扱いされます。マメ科クリトリア属で、英名  
が「バタフライ ピー」。チョウの豆です。

時々、花屋で販売されている、特にブルーの花が美し  
い蔓性植物です。私はこのブルーの色が大好きなので、  
観賞用に種を分けてもらい、水戸市植物公園のブリッジ  
にある花壇に植えました。

昨年9月、沖縄からいらした来園者の方が花を見て  
「アンちゃんだわ。」とおっしゃいました。タイでも、こ  
のブルーの花を乾燥させていただくハーブティーをアン

ちゃんと言います。目に良いそうですし、シャンプーに  
も使われるそうです。女性の美容と健康にアンちゃんか  
いいなんて、ちょっと面白いですね。

## 7 終わりに

この新聞連載は、担当記者が東京に異動したのを機に、  
3月末に157回で終了しました。もう3ヶ月近くの間があ  
るのですが、今回の参加者の3分の2は愛読者の方のよ  
うで、うれしく思いました。

講演会終了後には多くの方に声をかけていただき、つ  
たない私の思い出話が皆さんの思い出と共通している部  
分があつて喜ばれたようです。植物ファンが一人でも増  
えることを願って、これからもこんな活動を続けていき  
たいと思います。



# 茗溪・東西南北

## 一、仲間の顔が見える地域組織等の活動に向けて

平成二九年度の定時総会で、江田昌佑理事長は「当面の最重要課題の一つは「組織力の強化」であると述べていました。

また、昨年の全国調査でも「普段から各都道府県内にとどまらず、隣接地域間の連携が日常的になされていれば、有事の際を含めてスムーズな交流が出来るのではないか。」との提言も出ていました。

そこで組織委員会としては、左表のような「ブロック体制」を構築し、隣接地域間の連携を密にしていこうとにも、「組織力を強化」していくことを総会で報告いたしました。

### ブロック体制

- I. 国内組織
  - A 北海道
  - B 東北(青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島)
  - C 関東甲信越(筑波大学、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、新潟、長野)
  - D 北陸(富山、石川、福井)
  - E 東海(愛知、岐阜、三重、静岡)
  - F 近畿(滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫)
  - G 中国(岡山、広島、鳥取、島根、山口)
  - H 四国(香川、徳島、愛媛、高知)
  - I 九州・沖縄(福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄)
- II. 国際組織
  - 北京、台北、ロンドン、バンコク、ニューヨーク、ソウル

そして、定時総会終了後、出席代議員約五十名が、ブロック別に分かれ、それぞれブロックごとに幹事と記録者を選び、本部からも理事が参加して、「第一回ブロック別懇談の会」が開かれました。

## 二、第一回ブロック別懇談の会

ブロック別懇談の会では、各地域組織等(以下「地域」と言う)の総会日程や主な事業(公開講座等)の資料をもとに、「隣接地域の総会や公開講座への相互参加」や「ブロック内の連絡網の活用による交流活動の推進」等の可能性について話し合いがもたれました。また、筑波大学の卒業生の多い企業や県庁等における会員の組織化をどう進めていったらいいかを検討したブロックもありました。

### ○北海道・東北ブロック

- ・数年前から地域総会への参加数が二十名程度と少なく運営が厳しい現状である。
- ・新支部長のもとで組織活性化に向けて努力しているが、若手に参加し易い環境づくりが急務である。
- ・総会等への相互参加や企業人等の勧誘を行う等の意見があった。



北海道・東北ブロック



関東甲信越ブロック

### ○関東甲信越ブロック

- ・二月十一日のブロック代表者会議(季刊誌「茗溪」春号に掲載)に続く二回目の会議となる。
- ・各地域の総会等の日程や参加予定数等について情報交換を行った。

特に、地域活動の活性化には、筑波大学の学生を交えた事業の検討が必要との意見が出た。

### ○北陸・東海ブロック

- ・七月二日に両ブロックの代表者会議を行うことが、合意された。(詳細は、次号に掲載。)



北陸・東海ブロック



近畿ブロック

### ○近畿ブロック

- ・六月三日にブロック代表者会議を行うことが合意された。(詳細は、次頁を参照。)

### ○中国・四国ブロック

- ・年一回の総会と懇談会の開催が、活動の中心である。今後、県庁組織との一層の連携を検討する。
- ・東京教育大卒業生と筑波大卒業生との交流をどう深めるかが課題である。
- ・年一回同窓会通信を発行し、会員確保等の情報発信などを行っている。

### ○九州・沖縄ブロック

- ・沖縄地域が、関係者の尽力により、五月七日約二十名の参加を得て第一回総会を行った。(詳細は、次頁を参照。)
- ・茗溪会等の教員関係が中心であり、今後、企業等関係者や若手の参加が課題である。
- ・隣接地域間の交流を推進するために、ネットワーク作りを次回の会議で検討したい。



中国・四国ブロック



九州・沖縄ブロック

### 三、第一回近畿ブロック代表者会議

平成二九年六月三日(土)午後一時半から、ホテルサンルート梅田で第一回の近畿ブロック代表者会議が行われました。

この会議には、滋賀・京都・兵庫・和歌山・大阪の5つのブロックから参加した九名の代表者のほか、本部からも江田理事長と川田組織委員長が参加いたしました。

まず、江田昌佑理事長から『茗溪会百四十年の歴史をレビューし、いま我々は何をなすべきか!』について、①組織力の強化、②財政基盤の健全化、③価値ある事業の推進の三点から、現在の取り組みの状況と課題についての説明があった後、大阪茗溪会の松本秀範代表が進行役となって、各地域の現状と課題を中心に次のような協議が進められました。

**滋賀(町田 登支部長)** かつては、大学、義務教育学校、県立学校からの参加があったが、現在は、県立学校と大学関係者のみとなっている。対応策としては、若手グループや県庁関係、企業等の単位で活動する計画のもとで、出来ることから実施する考えである。

**京都(川合英之支部長)** これまでは、体育関係の茗溪会と京都支部の二つの流れがあり、体育はどちらかに参加する傾向があったが、現在は一緒に活動するようになってきた。課題は、若手にメリットをどのように実感させるかであり、一人ひとりが学校、部活動、民間関係で継続的に声かけをやっている。

**兵庫(中野顕治支部長)** 総会は、年二回(六月と正月)に行っている。実態は、六月が三十名程度、正月が六十名程度である。課題は、会員数が若干減少しており特に筑波大学の出身者が少なく、その掘り起こしや民間人、体育以外の教員への声懸け運動を行っている。県教委は、体育関係で茗溪が強い。

**和歌山(土肥 二郎支部長)** 教員中心の組織で、かつては泊りを伴う活動も行っていたが、現在は実施できていない。課題は、出席者の確保と増加であり、これまでに、一人ひとりのつながりで、体育の指導主事を入れて勧誘することも行ったが、そのときだけ出席する傾向があった。東京教育大関係者が中心であるが、現在若手グループの結成を検討している。

**大阪(松本秀範代表・戸井田克己幹事長・近藤 潤幹事)**  
 ・正会員数が減少しているため、三年前から茗溪会と合同で行っている。  
 ・大阪も副会長に企業人を本部役員にしているが、メリット感をどう与えるかが課題である。  
 ・近畿地区で連携を強めて、ジョイント形式の活動を少しずつ行いたい。

・教員、企業人ともに個人情報関係で異動等による動向がつかみにくい。本部情報とこちらの突合せを行っている。  
 ↓高校の同級生への電話作戦など、人と人のつながりを活用している。

**まとめ**  
 松本秀範代表(大阪)は、これまでの協議を踏まえ、今後為すべき事業として、次のようにまとめ、合意されました。

- ・近畿ブロックでは、各地域の異動について、お互いに情報交換を継続的に行う。
- ・地域で行う総会・講演会の日程等の情報交換を行い、相互の参加を認め合う。
- ・総会に出たくなるような内容が大切である。たとえば、著名講師紹介が可能なデータベース等の構築が必要である。
- ↓本部では、全国の講演会講師の名簿を作成していく。
- ・SNS等による情報交流を日常化することにより、連携推進を図る。
- ・FACE・BOOKで同窓会枠を設定することが出来るので活用の検討を行う。

今後、お互いの連携を深めながら、この会を継続していきたい。↓次回は、滋賀(町田 登代表)にお願いしたい。

### 四、沖縄茗溪会の発足にあたって!

去る5月7日(日)に、ネストホテル那覇において、『沖縄茗溪会第1回総会』が開催されました。出席者22名のこぢんまりとしたスタートになりましたが、昭和39年東京教育大学卒の会員から平成24年筑波大学大学院修了の若い会員まで幅広く参集し、集まった会員相互の交流・情報交換で終始活発に盛り上がりました。他方、中心的な課題である役員及び会の規約について、参加者全員で議論して決定し、『沖縄茗溪会』として正式に発足することになりました。

なお、参加された会員の方から、1971年に沖縄県茗溪会の発会の試みがあったものの、成立直前で頓挫したとのエピソードが紹介され、今回の発足を心から喜んでいただくとのお話がありました。諸先輩方の、茗溪会に関わる努力の跡を知ることができ、これも思わぬ成果でした。

全国47都道府県の中で沖縄県だけが、唯一、茗溪会支部が存在していませんでしたので、これで全国すべてに揃ったことになりました。今後しばらくは、あまり背伸びせずに、年に1回の総会・懇親会の開催のみを進めるとともに、沖縄県における茗溪のネットワークを拡げ、卒業生や社会に貢献していきたいと思えます。



近畿ブロック代表者会議



◆茗柏会総会

とき 平成29年4月28日(金)  
ところ 茗溪会館

茗柏会とは、茗溪会の同窓会員であり、嘉納治五郎校長の柔道の  
本流に棹差す柔道指導者の会です。本年で134年を迎える本学柔道  
部ですが、恒例の総会が茗溪会館において行われました。例年より  
もやや少ない31名の参加ではありましたが、会は大いに盛り上がり  
ました。(文責：川戸湧也)



◆教大体育学部 昭和33年同期会

とき 平成29年5月15日(月)  
ところ 新宿 栄寿司

卒業後の20年・30年・40年の節目に、恩師多数をお招きし、盛大  
にこの会を催し、翌年から毎年開き続けて今回に至っている。振り  
返り数えて驚いたのだが、来年で卒業後60年になる。思えば長い年  
月を乗り越え、そして続けて来たものだと感無量だ。皆80年の年を  
越えても、顔を合わせれば、皆昔のおもかげは残っている。来年も、  
今回の数が減らないことを願っている。

(写真：渡辺悦男 文：渡部岑生)



◆教大教育学部教育学科 昭和33年卒「笹の会」

とき 平成29年5月18日(木)  
ところ 東京ガーデン・パレス「つきじ植むら」

今年は市川、小山、金子、斉藤、芝崎、角替、渡辺の7名が参加  
できました。食事中から歓談し、食後は別室で話がはずみ宣揚歌を  
肩を組んで歌い、記念写真を撮り再会を約しました。(渡辺光男)



◆教大文学部社会学科 昭和32年卒 卒業60周年の集い

とき 平成29年5月24日(水)  
ところ 茗溪会館

卒業60年目を記念し、昨年に引続き開催しました。寄る年波をも  
のともせず、時間のとれた学友6名で歓談、楽しいひと時を過しま  
した。学生時代のエピソードに花が咲き、来年も開催することとな  
りました。次回は平成30年6月13日(水)茗溪会館にて土屋道生幹事  
です。

写真左から福岡 一雄・五十嵐耕一・濱田氏次女・笹井ひろ子・  
河合 明博・濱田 實・土屋 道生



◆山紫会(昭和34年教大文学部史学科東洋史学専攻入学者の会)

とき 平成29年5月29日(月)～5月30日(火)  
ところ 深澤家土蔵(東京都あきる野市)～「奥多摩路」

昭和34年に東洋史に入学した我々は、ご指導いただいた中嶋敏先  
生のお供をして、よく山へ参りました。3・4をもじって同級会を  
「山紫会」と名付けました。還暦後は毎年会員の出身の都県で同級  
会開催し、今年では東京でした。まず福生市にある中嶋先生のお墓を  
お参りし(ご子息も参加)、その後、深澤家土蔵に向いました。この  
土蔵には現在の日本国憲法と比べてもそんな色のないほど国民の権利  
等が盛り込まれた民主的な「五日市憲法」が保存されていたので、  
是非見学したい場所でした。「五日市郷土館」でボランティアの方  
から「五日市憲法」のお話を伺い、宿舎の「奥多摩路」に向いまし  
た。翌日は小金井の「江戸東京たてももの園」を見学し解散しました。

(写真：芝崎正行 文：高原 将)



◆教大体育学部健康管理学・阿部研究室同窓会

とき 平成29年5月10日(水)  
ところ 茗溪会館



◆ヨット部5～7期(S41～43年入学)とその応援グループ

とき 平成29年1月28日(土)  
ところ 渋谷 麗郷渋谷店

ヨット部では各期ごとの集まりが多いが、今回は弘前大(医)と東大(法)に再入学したメンバーと軽音の2名も加わり、3期合同の新年会を企画した。館山での練習、葉山でのレース、船の回航等の思い出とエピソード・先輩の悪口?で大変盛り上がりました。近況を報告し合い再会を期して散会としました。(47年卒 細谷)



◆平成28年度 筑波大学 バレーボール部 OB・OG会

とき 平成29年1月28日(土)  
ところ 茗溪会館

筑波大学バレーボール部OB・OG会は、東京高等師範学校から東京文理科大学、東京体育専門学校、東京教育大学、そして筑波大学へとつながる男女バレーボール部の出身者の集まりです。2年に一度、総会を行っています。総会の後、例年は筑波で行っている卒業生の送別会を、今回は現役バレーボール部の激励会(春季リーグ戦男女アベック優勝・女子は秋季リーグ戦も優勝しリーグ戦7連覇達成)を兼ねて、茗溪会館で行いました。(文責:柳久美子)



◆教大体育学部 昭和35年卒業女子の集い

とき 平成29年3月23日(木)  
ところ 新宿銀座アスター

いよいよ傘寿。会員24名中、物故者2名、不明1名。7割の14名が集いました。楽しいひととき、別れがたく半年後の再会を約して散会致しました。(写真:六笠元子 文責:山田けい)



◆博報堂OB茗溪会

とき 平成29年3月30日(木)  
ところ 神田錦町 テラススクエアビル

NHKのニュースセブンからクローズアップ現代に転身した筑波大学出身の武田真一さん(49)は、就活第一志望が広告マンだったとか(朝日新聞・ひと)。今日集まった仲間は二世世代以上の先輩達で、広告会社の隆興期に旧東京教育大からこの業界に飛び込み広告界の基礎を築いた仲間たち。神田錦町に復元した博報堂旧本社ビルのフードコートでタイ料理をつまみながらの雑談食事です。(長坂邦彦)



◆教大理学部応用数理学科 昭和42年3月卒クラス会

とき 平成29年4月14日(金)  
ところ 茗溪会館

11年ぶりのクラス会、卒業以来50年の節目であることから開催しました。私たちは昭和38年に新設された応用数理学科一期生です。近況報告、宣揚歌斉唱など有意義な会食懇談となりました。次回は4年後を約束し散会しました。(写真・文責:幹事一同)



◆教大農村経済学科 昭和34年3月卒クラス会

とき 平成29年4月26日(日)  
ところ 銀座清月堂新宿店

卒業以来58年振りに会う人もあり、お互いに自己紹介しないと分からないほどの久しぶりの再会でした。入学当時の同期生28名中、物故者は12名。残りの生存者で当日の参加者は8名でしたが、それぞれ現役時代に大活躍した面々でしたから、81歳とは思えないほどの元気で回顧談に花が咲き、2年後の再会を期して散会しました。(幹事:富永静枝、写真:森元光保、文責:田中真澄)



# 茗溪学園だより

## 30周年記念アゴラ棟竣工

去る4月27日、昨年7月より工事が進められていた新棟の竣工を記念する式典が催されました。式典では、つくば市長五十嵐立青様、茨城県総務部総務課私学振興室長小野瀬篤郎様、本校父母会、後援会、桐創会（同窓会）の役員の皆様のご参列をいただき、設計監理の岩佐設計工房岩佐周明様（本校卒業生・S62卒）、施工の池田建設株式会社様への感謝状贈呈が行われ、また、ご来賓の方々からご祝辞を頂戴いたしました。

この新棟建設は、少人数授業を数多く展開している本校において、国際バカロレア（IB）課程を始めることによりさらに教室数の確保が必要となったこと、30周年事業で掲げた目標を実現させる、という二つのことを同時に達成する事業として行われました。

2階建て床面積648㎡ですから、大きな建物ではありませんが、1階部分に実験室と小教室4室（仕切ると7教室になる）を配し、2階を約300人（収納式座席を設置）が収容できる多目的講堂としました。これにより、IB課程ばかりでなく学校全体の少人数授業展開が



「30周年記念アゴラ棟」卒業生（S60卒）から記念植樹として桜の木をいただいた

進めやすくなりました。ここ5年間ほど教室数を増やすための既存教室などの改修を毎年のように行い、少しずつ教室増を図ってきましたが、この新棟建設で教室確保は一区切りついたことになりました。新棟は、「30周年記念アゴラ棟」、2階は「アゴラホール」と命名されました。



中川喜久治理事長のご挨拶  
「百年樹人」を題材に教育の大切さを語られた



生徒のプレゼン 3組の研究発表が行われた  
写真はゲンジボタルの分布の研究



アゴラ棟での授業 中学1年英語  
(G1クラス・外国人教師による) 授業

課題名は、「世界に提案できる、探究力育成を目指した茗溪学園式中高一貫カリキュラムの開発」です。目的は、「筑波大学や研究機関の多いこの筑波の地の利を生かし、

本校は、グローバルスクール構想のもと、IB課程をはじめとし、グローバル教育を積極的に展開しようとしています。そのような教育が行われる場所となる建物に相応しい名前として、「アゴラ」が選ばれました。古代ギリシャの都市国家における広場（市民が集って議論などが交わされた場所）です。それに、30周年事業を冠させていただきます。

式典の後、アゴラホールの使い初めとして、生徒による研究発表が行われました。このようなプレゼンの機会が増えます。アゴラホールは学年集会なども含め利用頻度の高い場所となります。また、1階教室も、IB課程の授業や中学Gコースの授業など活用されています。これらの教室の活用により効率化された授業展開となるように進めていきたいと思っております。

なお、この新棟建設には、設計監理の岩佐様をはじめ構造設計や音響設計など複数の卒業生が関わりました。卒業生の活躍を身近に感じる事業でもありました。

### SSH(第2期)指定を受ける

昨年度はSSH経過措置校となっていました。再度指定(2017(2021年)を受けることができました。第2期の研究開発

### 部活動など結果報告(4~6月)

◎**中学ラグビー部**: 関東大会優勝(2年連続14回目)、全国大会出場(7年連続7回目、9月水戸開催)

◎**高校ラグビー部**: 第18回全国選抜大会結果・予選リーグ1勝2敗、第4回全国7人制大会4年連続4回目出場7月15~17日東京江戸川競技場他

【**高校インターハイ出場**】南東北大会(宮城、山形、福島、8月初旬開催): 柔道女子個人57kg級(県優勝)、体操男女(共に個人)、バドミントン個人男子シングルス(県優勝)とダブルス、フェンシング個人女子

### 【高校関東大会】

出場部活: ラグビー部(県優勝)、剣道部(男女)、体操部(男女)、バドミントン部(男女)、柔道部(女)、軟式野球部(県優勝) 以上6部活

◎**中学テニス部**: 女子県大会優勝・関東大会出場

またIBDP(国際バカロレア・ディプロマプログラム)認定校として、科学技術及び科学技術と不可分な関係にある現代社会の最先端に立ち、歴史的・文化的な視点を持ち、国際的な視野で物事を考え、未知の課題に挑戦し解決する意欲と能力を高め、生涯を通じて学び続けることのできる生徒を育成する」です。第1期において明らかとなった課題を踏まえ、①中高一貫を活かした探究スキルの育成カリキュラム ②ハイレベルかつ主体的な学びを実現する理数カリキュラム ③深い思考に繋がるクロスカリキュラム の開発を進めていきます。新築なったアゴラ棟を活用しながら、新たなSSH事業も含め意欲的に取り組んでまいります。

## 追悼録 (敬称略)

**高山正喜久** 〒171-0033 筑波大学名誉教授 29・2・10 妻 高山フミ子  
**宮原 千千** 〒405-0005 14文図講習所 29・4・6 長男 宮原 千明  
**渡辺弘一郎** 〒336-0015 山梨市小原東1004 妻 影山美知子  
**石井 睦三** 〒393-0052 15大漢 29・3・3 妻 諏訪郡下諏訪町上久保6011 長男 石井 啓一  
**佐藤 彦信** 〒178-0063 17臨教 29・1・30 長女 練馬区東大泉6-18-8 佐藤 順子  
**井上 早太** 〒225-0002 17農教 28・9・1 次男 横浜市青葉区美しが丘4-11-5 井上 宏  
**石川 宏** 〒260-0815 20体専 28・7・29 長男 千葉市中央区今井町1-16-17 石川 隆雄  
**清水正三郎** 〒223-0056 22大教 29・1・7 妻 横浜市港北区新吉田東2-3-1-1308 清水千代子  
**新津 真澄** 〒384-0621 22農教 29・2・25 長男 佐久市入沢507 新津 彰  
**千葉 燐** 〒101-0025 23文四 29・2・2 長女 千代田区神田佐久間町3-21-1203 中川 周子  
**時松 茂親** 〒345-0036 24文一 29・3・7 妻 北葛飾郡杉戸町杉戸1-5-23 時松 啓子  
**本澤仁三郎** 〒326-0842 24理一 28・8・1 妻 足利市今福町185-3 本澤 利子  
**太田 尚充** 〒036-8151 24体 28・12・9 妻 弘前市北園2-12-38 太田かず子  
**倉橋 宗作** 〒165-0032 25理二 29・1・17 妻 中野区鷲宮3-10-9 倉橋 仁子  
**松本 夷男** 〒190-0022 26理二 29・2・12 妻 立川市錦町1-22-2 松本 絹代  
**篠原圭三郎** 〒290-0006 27理三 29・4・20 妻 市原市若宮2-7-4 篠原 君代  
**丸山 弘平** 〒156-0045 28教大西史 29・4・6 妻 世田谷区桜上水5-19-6 丸山 邦子  
**木谷 要治** 〒247-0035 28教大動 29・4・25 長女 横浜市栄区桂台西2-4-18 木谷弥生子  
**関本 克己** 〒284-0003 28教大委 29・1・8 長女 四街道市鹿渡933-113 関本 尚子  
**石川 正明** 〒337-0017 29教大哲 29・3・24 長男 さいたま市見沼区風渡野395-4 石川 正豪  
**秋元 健一** 〒272-0827 29教大経 29・4・1 長男 市川市国府台3-8-4 秋元 哲哉  
**徳久 球雄** 〒191-0032 29教大地 28・11・1 長女 日野市三沢5-17-1 徳久 道子

## 逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・遺族住所・氏名

**野口 昌三** 〒190-0013 29教大健 29・4・17 妻 立川市富士見町6-18 野口 直枝  
**赤司 政雄** 〒225-0014 31教大農経 29・3・19 長女 横浜市青葉区荏田西3-19-1 田中 理香  
**京増 敏朗** 〒262-0015 31教大体 29・6・9 妻 千葉市花見川区宮野木台3-9-2 京増 綾子  
**島田 昌彦** 〒355-0025 32教大國 29・3・13 妻 東松山市幸町9-27 島田日出子  
**海老原英夫** 〒331-0812 32教大法政 29・4・24 妻 さいたま市北区宮原町1-581 海老原靖子  
**藤井 泰光** 〒330-0061 34教大健 27・6・26 妻 さいたま市浦和区常盤1-8-18 藤井 悦子  
**川崎健次郎** 〒985-0053 35教大体 29・1・30 妻 塩竈市南町14-3 川崎 紘子  
**小島 一夫** 〒193-0835 35教大健 27・2・25 妻 八王子市千人町2-18-14 小島 靖子  
**森田 賢二** 〒371-0104 35教大健 29・3・13 妻 勢多郡富士見村時沢889-11 森田 公子  
**池田 齊** 〒950-2055 36教大体 29・3・3 妻 新潟市西区寺尾上1-1-21 池田由紀子  
**吉浜 晋** 〒241-0815 36教大体 29・4・11 妻 横浜市旭区中尾1-33-7 吉浜 昌子  
**吉田 幸雄** 〒320-0051 36教大健 28・12・20 長男 宇都宮市上戸祭町571-12 吉田 寿光  
**鈴木 和則** 〒990-0861 37教大東史 28・6・20 妻 山形市江俣4-15-21 鈴木 洋子  
**山本 勝見** 〒639-1065 37教大体 27・1・18 妻 生駒郡安堵町笠目361-2 山本 佳子  
**伊藤 裕久** 〒400-0025 38研 29・1・31 長男 甲府市朝日2-15-24 伊藤 裕之  
**安達 侑男** 〒329-2332 39教大体 29・2・26 妻 塩谷郡塩谷町大宮32 安達 恵子  
**池田 誠司** 〒714-0044 39教大体 27・2・25 長男 笠岡市神鳥3407 池田 健  
**今村 和正** 〒504-0021 40教大体 29・1・13 妻 各務原市那加前洞新町3-255-2 今村 君子  
**桑原 教昭** 〒930-0018 46教大体 27・8・9 妻 富山市千歳町2-3-13 桑原 和子  
**伊藤久仁子** 〒253-0021 47教大体 28・4・28 夫 茅ヶ崎市浜竹4-3-41 伊藤 静夫  
**今井 真澄** 〒151-0061 53教大教 29・2・12 妻 渋谷区初台2-19-14 今井 裕子  
**福本 哲也** 〒845-0075 57筑二人間 29・5・2 妻 諫早市馬渡町6-24 福本 雅子



Service Safety Sincerity  
あなたのそばに。セキショウグループ。

# SEKISHO

Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



### 関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹 (学校法人 若漢学園理事)

つくば本部 / 茨城県つくば市ニの宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若漢会担当: 常務執行役員 人事部 岡本 俊一  
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<http://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

## 大曾根タクシー株式会社

取締役社長 塚本 一也

(平成3年環境科学研究科修了)

☆24時間営業

☆お迎え料金無料

☆カード利用OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tasukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます

# 平成二十九年春の叙勲

おめでとうございます(敬称略)

瑞宝中綬章

天野 彰夫 35教大 大休

瑞宝小綬章

松山 健一 30教大 大休

三村 治夫 35教大 大日史

島田 誠一 41教大 大日史

小林 義明 42教大 大理

豊田 敏盟 42教大 大理

青柳 正美 44教大 大休

岸 仁一 44教大 大農化

梅林寺 齊 44教大 大農化

藤原 善行 44教大 大漢

(愛知)

(福岡)

(北海道)

(埼玉)

(山形)

(栃木)

(茨城)

(栃木)

(埼玉)

(愛知)

## 平成28年秋の叙勲(追記)

瑞宝小綬章

鈴木 博 36教大 大休

(北海道)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

## 訂正

1093号(平成29年春号)で誤りがありましたので訂正いたします。

・P22 「平成28・29年度代議員一覧」で文部科学省の三橋浩志氏(昭63筑一自)が抜けていました。

・P19 「茗溪フェロー協力者」芳名」掲載漏れがありました。1095号(平成29年秋号)で追掲載します。

## 広報

地域茗溪会の総会・講演会(実施・予定)

月日	地域名	月日	地域名	月日	地域名
5月7日	沖繩	5月13日	北海道	6月3日	大阪
6月24日	長崎	6月25日	長野	6月25日	埼玉
6月27日	筑波大	7月1日	新潟	7月1日	群馬
7月1日	福島	7月1日	秋田	7月1日	栃木
7月1日	鳥取	7月1日	奈良	7月2日	静岡
7月1日	福岡	7月2日	愛媛	7月2日	富山
7月2日	愛知	7月2日	茨城	7月2日	千葉
7月15日	三重	7月17日	和歌山	7月22日	山梨
7月22日	神奈川	7月29日	佐賀	8月26日	青森
11月18日	京都	11月25日	宮城	12月3日	東京

## 表紙の言葉 デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔

地下鉄、茗荷谷駅前の春日通りを渡って、ゆるい下り坂の先に東京教育大学があった。駅からわずか100m足らず。まず文学部と教育学部に入った白いE館が目に入り、近づく左手に本館が見えた。本館前の芝生の中に「若竹」ときざまれた彫像が立っていた。華美な所はないが私はこの雰囲気が好きだった。さて、現在は筑波大学東京キャンパスとしてE館跡地に放送大学と筑波大学が同居する瀟洒な校舎が建っている。竣工は平成23年8月である。日本初の社会人大学院(夜間)ビジネス科学研究科と人間総合科学研究科の8専攻が入る。写真左手、本館やW館のあったところは教育の森公園となっている。遠くの制服姿の団は、筑波大学附属小学校の下校する生徒たちである。なお、若竹像(故木村珪二教授)は現在も玄關脇に見ることが出来る。

## 編集後記

本夏号(1094号)から秋号、来年の正月号の3回にわたり、特集「人間 嘉納治五郎を語る」が始まりました。江田昌佑茗溪会理事長が聞き手となる対談形式です。第1回の真田久筑波大学教授との対談「オリンピックを世界共通の文化にしたい」嘉納治五郎の目指したオリンピックから大変興味ある内容となっています。今更ながら嘉納治五郎のオリンピック招致に対する情熱を知り、認識を新たにしています。秋号に掲載予定の第2回特集は、江田理事長と山口香さんとの対談「嘉納治五郎の求めた柔道の理念」です。ご期待ください。

・毎年夏号に掲載している「宿舍祭(やどかり祭)を終えて」は、今年は誌面の関係で秋号に掲載することになりました。

## お願い

・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。  
・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

平成29年7月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二三

TEL 〇三三三九四一〇二三六

FAX 〇三三三九四一七六七四

Email info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇二四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九一八五〇一〇四四

FAX 〇二九一八五〇一〇四五

Email tsu3innu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社

—筑波大学の知の発信—  
**筑波大学出版会**  
<http://www.press.tsukuba.ac.jp/>

近日刊行  
**サービスサイエンスの事訊**  
 データサイエンスと数理学の融合に向けて  
 高木 英明 編著

好評発売中  
**サービスサイエンスことはじめ**

発売：丸善出版株式会社  
 TEL:03-3512-3256  
 FAX:03-3512-3270  
<http://pub.maruzen.co.jp/>

POD版：Amazon



松井 圭介 著  
 2800円＋税  
 A5判 206頁  
 ISBN 978-4-904074-44-2

**観光戦略としての宗教**  
 長崎の教会群と  
 場所の商品化

筑波山地域  
 ジオパーク認定



前川 啓治 編  
 2900円＋税  
 A5判 194頁  
 ISBN 978-4-904074-33-6

**筑波山から学ぶ**  
 「とき」を想像・創造する

紙版・電子版



「科学の芽」賞  
 実行委員会 編  
 1900円＋税  
 B5判 232頁  
 ISBN 978-4-904074-40-4

もっと知りたい！  
**「科学の芽」の世界**  
 PART 5

**株式会社 阿部兄弟建築事務所**  
<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032  
 東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル  
 代表取締役 荒井 豊人 (昭57 筑基工)  
 TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

経営・労務・年金etc. コンサルタント  
**福岡経営労務事務所**

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3  
 TEL 03(3607)0551 FAX 03(3607)0551

所 長 福岡 一雄 (32教大法政)  
 社会保険労務士



URL <http://www.juwa.com> E-mail: [travel@juwa.com](mailto:travel@juwa.com)  
 〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254  
 TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

**大塚英語教育研究会**

入会歓迎！英語(文学・語学・教育)に興味ある方  
 筑波大文京校舎で月例の英文講読・講演等を実施  
 ホームページ <http://otsuka.news.cocan.jp/>

代表 藤原 保明 (昭48教修英 平3筑博文言)  
 E-mail: [yyysstpf@mail.accsnet.ne.jp](mailto:yyysstpf@mail.accsnet.ne.jp)

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」  
**TSUKUBA WAY プロジェクト**  
 ~茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!~

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ  
 代表取締役 藤田 文武 (体育専門学郡 2004年卒)

**永井建設株式会社**

〒273-0115 千葉県鎌ヶ谷市東道野辺3-1-7  
 電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940

営業部長 高野 力 (昭48教大木工)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 **ケエスアイ**

東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-1  
 東京フジビル502号室

TEL 03-5357-1668 FAX 03-5357-1669

**株式会社 長谷工 コーポレーション**

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号  
 電話 03(3456)1578

常務執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

## つくばでの宿泊・研修に—

ご家族で、お仲間で 最大収容180名、お一人3,700円から  
 茗溪会員とご家族に割引あり  
 研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に  
 シングル145室ツイン5室和室5室／研修室2室 (120・40名)  
 和室も研修室として利用可 (20畳、10畳)  
 館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等 (数名から80名まで)

アクセス 秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車  
 ●バス／「筑波大学循環」3丁目「筑波メディカルセンター前」下車  
 徒歩8分 ●つくば駅からタクシー／5分

—一般財団法人筑波学都資金財団

**筑波研修センター**

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5  
 TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886

<http://www.meikei.or.jp/~center> e-mail: [center@meikei.or.jp](mailto:center@meikei.or.jp)



(株)ブライダルは  
筑波大学同窓会会員の  
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

## 39年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗溪」を見たとおっしゃってくだされば、茗溪会の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料100%OFF)にてお世話させて頂きます。

筑波大コース 登録料 100%OFF

ブライダルコース  
¥226,800 ▶ ¥194,400 etc.\*

エクセレントコース  
¥388,800 ▶ ¥356,400 etc.\*

※価格は会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

お問い合わせ  
(月曜定休)



0120-415-412

詳しくはホームページをご覧ください。

(株)ブライダル

検索



ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>



1978年創業  
株式会社

ブライダル

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F  
Network / 東京・横浜・湘南・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

TWR 「日本全国を元気にする！」  
超高齢化社会に伴う健康課題に対して、  
筑波大学の研究成果に基づく健康サービスを提供しています。

事業内容



ビジネスモデル



株式会社つくばウェルネスリサーチ <http://www.twr.jp/>  
〒277-8519 千葉県柏市若菜178番地4 KOIL505  
Tel: 04-7197-2360 Fax: 04-7197-2361

■ 法人向け・個人向け・中長期向けなど様々な人材育成のサービスを提供しております。



**桜美林大学**  
J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群  
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群  
グローバル・コミュニケーション学群 (2016 年開設)

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士  
学長 三谷 高康  
入試事務室相談役 川田 孝一 (昭 39 教大総農)

【お問合せ先】  
〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758  
桜美林大学インフォメーションセンター  
Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



**改革のキーパーソン,ここに集結!**

若林 鈴木 竹井 山田 石川 富岡 田沼 渡邊 柴原 林 諸富 西野 押谷 貝塚 柳沼 合田  
尚子 明雄 秀文 誠庸 栄茂 満弘 泰成 祥彦 真由美 由夫 茂樹 良太 哲雄

**「考え,議論する道徳」  
を実現する!**

A5判 192ページ  
本体2,000円+税

主体的・対話的で深い学びの視点から

「考え,議論する道徳」を実現する会 著

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15  
<http://www.toshobunka.co.jp/>

**図書文化**

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519  
ブックライナーで注文可 ☎0120-39-8899

Meikei-  
Making  
the  
Difference



Meikei  
High School

茗溪学園中学校高等学校

\* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆ 寮のある学校です
- ◆ 国際バカロレア (IB) 認定校です  
2017 年 4 月から IBDP 課程開始
- ◆ 「知識」「体験」「考え方」  
——とことん学び身につけます
- ◆ 部活動が盛んな文武両道の学校です



平成 29 年度公開行事

7月28日(金) 吹奏楽部 定期演奏会  
会場：つくば市ノバホール  
9月 2日(土) 高校受験生見学会  
10月21日(土) 学園説明会  
11月 7日(火) ~12日(日)  
茗溪学園美術展  
会場：茨城県つくば美術館  
詳細は、学校ホームページをご覧ください



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、  
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」  
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)